

令和6年度 東京都立東大和南高等学校 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立東大和南学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成
教務部主任兼務＝事務局長、生徒部主任、進路部主任、総務部主任 計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭3名(教務部主任、進路部主任、総務部主任)、生徒部主任
保健主任 計7名
- (4) 協議委員の構成
教職大学院、東大和市教委、近隣中学校長、警察署職員、近隣施設機関、PTA会長、教育機関
計7名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年5月22日（水）内部委員7名、協議委員7名
対面にて開催
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出、学校経営報告、学校経営計画、各分掌の取組（中間報告）、学校評価アンケート案の提出、アンケートによる意見交換
令和5年度学校経営報告及び令和6年度学校経営計画
 - 第2回 令和6年10月16日（水）内部委員7名、協議委員7名
これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和7年3月5日（水）内部委員7名、協議委員7名
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年10月16日（水）内部委員3名、協議委員2名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討（学校評価アンケート案の検討）
 - 第2回 令和6年3月5日（水）内部委員3名、協議委員2名
アンケート集計結果の分析・考察（アンケート結果の分析と確認）

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学習指導」「生活指導」「進路指導」「環境整備」「特別活動・部活動」「学校生活全般」「40周年記念式典の実施」の観点で実施する。
- (2) Formsによるアンケート調査の実施時期・対象・規模

・1月 全校生徒	対象：829人	回答：797人	回答率：96.1%
・1月 保護者全員	対象：829人	回答：300人	回答率：36.1%
・1月 教職員	対象：57人	回答：57人	回答率：100%
- (3) 主な評価項目
 - ・※学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、40周年記念式典、オンライン授業などの評価項目を学校実態に合わせて適宜設定した。
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・生徒・保護者・教職員ともに授業や学校行事、部活動、満足度などに高評価がついている
 - ・学年が上がるにつれて、家庭学習・進路意識・挨拶の項目の高評価が上昇している
 - ・教職員の自由記述には、本校の課題が的確にかかれていると感じるとともに、具体的にどこを改めると良いのかといった具体的な内容にまで踏み込めると良い。例、業務の効率化を課題ととらえている
 - ・一方で、進路情報の提供不足を保護者が感じている。（約40%）
 - ・また、校則の在り方について、保護者の59%が否定的である
 - ・生徒による授業評価に対する教員の改善案がきちんと生徒に伝わっていないのではないかと。

- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）
 - ・教職員間の差をなくす組織体制を構築すること（例、ICT活用やHR運営において）
 - ・保護者との緊密な連携をさらに進めていくこと（例、三者面談等）
 - ・生活指導の改善を進めること。生徒が当事者意識を持ち、自ら作り、自ら守る校則づくりを求めたい

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

- (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果
 - ・40周年記念式典は、学校関係者にとって有意義なものであった。
 - ・生徒・保護者は、授業・部活動・学校行事に対して80%以上の満足度を示した。
 - ・海外修学旅行について、90%以上の好評を得た。狭間の学年でも、70%の満足度を得た。
- (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題
 - ・生徒及び保護者と教職員間で、学校評価に乖離が見られる。
 - ・「校則の見直し」や「三者面談」の確実な実施について取り組んだが、必ずしも、生徒や保護者の満足につながっていない。
 - ・校則等に対するネガティブな印象をもつ生徒や保護者に対し、学校での集団生活に必要なルールやマナーについて考えたり、理解したりする機会が不足している。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

- (1) 学習活動
 - ・読書活動の充実及びホームルーム活動の充実について、学校全体で取り組んでいく。
 - また、補習や講習と部活動のすみ分けを検討し、解決にあたってアクションを起こすことが大切。
- (2) 生活指導
 - ・生活指導の改善を図り、生徒に当事者意識を育成し、自分たちの学校をよくしていくためのルール作りとその遵守に取り組ませる中で、建設的な意見を構築する態度を育成する。
- (3) 進路活動
 - ・生徒、保護者、教職員はいずれも進路実現できる学習環境になっていると評価しているが、情報提供、相談活動については4割近い保護者が不十分と感じているため、情報発信の一層の工夫を進める。
- (4) 環境整備
 - ・生徒、保護者、教職員はいずれも環境整備への関心は高く、環境美化や衛生面での改善がもとめられているため、校内の点検や環境整備を進める。特に、職員室内の環境改善及び校内の清掃が重要。
- (5) 特別活動・部活動
 - ・学校生活の充実が進路自実現や納得のいく学校生活につながっていると考えている生徒・保護者が75%以上であったが、学習との両立については70%であった。一層の充実が必要である。
- (6) 学校生活全般
 - ・生徒・保護者の90%程度が本校に入学して（させて）良かったと回答している。学年間の差はほぼなかった。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

- (1) 協議委員人数 7人
- (2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数 3人

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	4	0				

7 その他

- ・アンケート回収率の向上を図るため、Formsを利用したことで、生徒及び教職員の回答率を上げることができたが、保護者が伸び悩んだ。次年度は送信方法や周知について工夫をする。
- ・様々な媒体を活用し中学生向けの広報、在校生向けの進路情報等の情報発信の機会を工夫し増やしていくことが必要。